
Let's thinking !! ~ 考えちゃダメだろ... ~

ベルム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Let's thinking！！　　～考えちゃダメだろ…～

【Nコード】

N9507T

【作者名】

ベルム

【あらすじ】

死んでへんなところに来た。そしたら何でも異世界に送られるらしい。チートな能力は追加制？おりキャラ、ご都合、無敵無敗俺T ueeeeeee！成分だほとんど。ポロリは・・・ないよ？

終わりは始まり（前書き）

テストがあるので

更新できない日があります

そして駄文です

あしからず。

終わりは始まり

・・・おk

まず今俺がどこにいるか説明しよう。

今俺はなんか書庫みたいなところにいる。

だが、俺はこの書庫を知らない。それに、なんかこの書庫、変な感じがする。

「・・・ん？」

とりあえず誰かいないか歩いてみると、不思議な『もの』を発見した。

「・・・まねきねこ？」

そう、まねきねこ。ただし、両手を天に向けてあげている。

ぶっちゃけ、気味が悪い。だってなんか、笑ってるし。

『気味が悪いとは心外だにゃー』

・・・つちみk(ry

・・・某禁書目録の二重スパイの名前を言いそうになった。だって、声とか似てたし。

俺、何気にあのキャラ好きなんだよね。まあ、。条さんほどではないが。

と、いうか――

「まねきねこがしゃべった!？」

『まねきねこじゃないにやー。俺は“ヘラクレス”だにやー』

ヘラクレスって、あのヘラクレスか？

本名ヘーラクレース。12の試練を超えたとされる最強さん。黄金の林檎とかとってきたんだっけかな？

そのヘーラクレースさんがまねきねこ……。

………ばんなそかな!？

『なんだにやー？その驚き方は』

「……すみません。忘れてください」

とりあえず、このまねk「ヘラクレス」……ヘラクレスは俺の心を読めるらしい。

と、いうことはだ。

「ヘラクレスさんはここが何処だか知っているのか？」

『ここは、あらゆる能力を保管するある意味最強の【宝庫】だにや

」

・・・あらゆる能力を保管する？最強の【宝庫】？

まてまてまて。何で俺はそんなところにいるんだ？

『それは君が死んだからにやー』

「・・・死んだ？」

・・・思い出した。俺、交差点で飛び出した子供助けたわ。んで、車に轢かれた。その後の記憶がないから、たぶん即死だったんだろ
うな。

『おもいだしたかにやー？』

「ああ、思い出した」

ああ、そうか俺死んだのか。そうかそうか、俺死んだのか。今思えば、それなりに楽しい人生だったな。友達とバカやったり、喧嘩したり、仲直りしたり。

・・・ただ、彼女がほしかったっ！俺まだDT！そして、親孝行し
たかった！

どうやら俺は他のやつらと違うらしく、反抗期がなかった。つか、
親とは結構仲良かったから、反抗する理由がなかった。

・・・ん？まてよ？じゃあ、何で俺はここにいった？俺死んだんだ
よな？

『それは今から説明するんだにゃー』

どうやら今からこのまゝ……ヘラクレスさんが説明してくれるらしい。言い直したのは、ただ単に間違いそうになっただけで、別にヘラクレスさんから無言の圧力かけられたからじゃないんだからねっ！……自分で言つて吐き氣してきた。

『まあ、間違いそうになったことは今はおいておくにゃー』

どうやら許してくれるらしい。黙って続きを聞こう。

『本来君はあそこでは死なないはずだったんだにゃー。でも、君は死んでしまったんだにゃー。これがなにを示すかわかるかにゃー？』

「……わからん！」

『わからなくて当然だにゃー。……本来死ぬはずじゃない人が死ぬ。これは神が書いたシナリオがばあになるのと同じにゃー』

「つまり？」

『あなたが本来生きていて遭うはずの人と出会わず、生まれてくるはずの子も生まれてこないにゃー』

「……つまり？」

『君が死んでしまったせいで、世界の半分の人シナリオが狂ったことになるんだにゃー』

「・・・まじで？」

『まじでだにゃー。・・・それで神は君の存在を最初から【なかった】ことにしようとしたにゃー』

「・・・オイ、神。なにしようとしてんじゃ」

『死んだ君が悪いにゃー。・・・でも、いくら神とはいえ、存在そのものを【なかった】ことにはできないにゃー。だから、君には別の世界で生きてもらうにゃー』

「別の世界？」

『そうだにゃー。君が今から行く世界は【剣も魔法も何でもござれ！魔王だつて出てきます！】なところだにゃー』

「え？なにその死亡フラグ？」

つか、そんなところ行ったら、俺とかすぐに死ぬくね？

『それは大丈夫だにゃー。こちらで最大限の支援をするにゃー』

「具体的には？」

『所謂【あなたも今日からチートで無敵超人に！】ってやつだにゃー』

・・・おおう。夢にも見たチート。何度もうs・・・もとい、想像したことか！ああ、神よ！ありがとう！

『と、いうことで、こちらで勝手に用意するから、とりあえず逝ってくるにゃー』

「え？チートって選べないの？」

『その場面に合わせてこつちが能力を与えるにゃー。ちなみに一度貰った能力は完璧に自分の思い通りに出来るにゃー』

「つまり、追加制？」

『まあ、そんなところにゃー。身体能力とか魔力とかは最初から魔神級にしとくにゃー。でも、危ないから、リミッターを何段階に分けてつけときにゃ。技とかは君が知ってるものであれば、どんなものでも使えるようになるにゃー』

・・・もうそれだけで最強チートじゃん。追加いらなくネ？

『まあ、それはこつちの都合もあるから勘弁にゃー。じゃ、いつてくるにゃ』

「え？ちよ、まああああああああ・・・！」

なんかしらんがいきなり落とされた。

・・・俺、これからどうなるんだ？

終わりは始まり（後書き）

これはひどい

つか、ひど過ぎて逆にすがすがしいw

「えーっと、なにになに。『空間を認識。使用者の周りの気温を22度に固定。空間制御開始・・・制御完了』」

頭の中で、自分の周りに膜ができるように想像して、その内側の空間を22度に保つように想像した。そしたらあらびっくり。あつと
ういまいに快適空間に。

「なにこれマジ便利」

他にも使い方が流れてきた。

【空間の使い方

1、攻撃方法

敵の周りに超重力を発生させ、敵を圧死させる。ただし、それには使用者の魔力が相を
上回っている必要がある。

2、倉庫

自分独自の空間を発生させ、そこに新たな世界を発足させる。倉庫や、修行の場所として使うことが可能。空間は何個でも発生させることができる。

3、空間制御

自分の周りの空間を制御し、他の人に見えないようにしたり、攻撃を無効化できる。ただし、無効化できる攻撃の威力は、使用者の魔力と精神力によって大きく変わる

4、上の応用

上の項目を応用することで、特定の物体の時間を早くしたり遅く

したり出来る。そのほかにも、超重力を自分の任意の方向に放つことが出来る。

説明終了】

・・・ブ。ゴっすか？ブ。ゴなんすか？

いやどう考えたってそうでしょ！いや、空間とかはマ。ラとかのほうか？

いや、それにしても規格外。まあ、最後のやつは大きさによってグ。ビティー。ラストみたいになるかも。

まあ、いまの俺の魔力はリミッターがかかってるから、せいぜい『おお、意外と高い』ぐらいだろう。

ちなみに身体能力にもリミッターがかかっていて、常識の範疇をギリギリアウトしたぐらいだそうだ。

・・・え？

アウトしたらだめだろ？

俺もそう思う。

まあ、そんなところだな。ちなみにここはどこからどう見ても火山だった。なんか、モン。ンの火山に似てると思ったのは秘密だ。

「ふう、とりあえずでぐち・・・を・・・」

・・・おつふう。なんかモンスター出てきた。しかもマグマの中から。なんかグラ。モスに似ているが翼がないところを見ると違うだろう。代わりに、ティラノサウルスみたいな腕が生えてた。

「GYA O O O O O O O O !」

やべっ！もろ目が合った！したらなんか咆哮上げてきた！・・・俺ピーンチ。

「って俺のばか早く逃げないって！」

だが時既にやs・・・おそし。グラ。モスみたいなやつはこちらに向かって突進してきた。ベン・ジョンソンも真っ青な速度で。

「ああ、これ終わったな・・・」

ああ、せめてセフィ。スの愛刀【正宗】を振ってみたかったな。そんなことを思っている——

『てつててー』

！？またか？なんなんだこの気の抜ける音楽は・・・。

『よろず創造のスキルを手に入れた』

・・・はい！？創造ってどこの卑屈主人公だよ！

まてまてまて。もちt・・・落ち着け俺。そうだ、素数を数えるんだ。4, 6, 8, 9, 10, 12, 14・・・素数じゃない！しかも全部！

【せつめい

いろんなものを創造できます。創造なんでオリジナルなチートのものも創造できます、まる

せつめいおわり】

てきとーだあああああああ……！！

何この適当感！説明するきねえーだろ！つか、何でさっき美人のおねーさんみたいな声だったのに、いまのは幼女の声だったの！？もう、分けわかんない！

「……落ち着け俺。いまは目の前に集中しやがれ」

そつだ。いまもあいつはこっちに向かって絶賛突進中だ。こうなったら、一か八かやってみるしかない！

「俺はやるんだ！『創造。対象は使用者の記憶にある正宗。創造開始……創造完了。Creation!!』」

俺は、頭の中でセフィ。スが使っていた正宗を想像した。そしたら機械的な声とともに俺の目の前に正宗が現れた。

「……軽い」

一見2m以上もある超重量な武器に見える。だが、実際持ってみると羽のように軽かった。なぜ、セフィ。スがあんなに軽々振り回せるかわかった気がする。

「とりあえず・・・やってみますか」

ヘラクレスは俺の知っている技なら使えるといていた。だったら

「居合い切り・・・！」

そう言つて相手に斬撃を飛ばす。何発か当たつたがそれなりに効いたようだ。グラ。モスみたいなやつは、痛みに悶えて動きを止めた。

よし！次で決める！

「これで終わりだつ！——八刀一閃」

グラビモスみたいなやつにセフィ。スの技の中で一番好きなやつをお見舞いする。リミッターはかかっているが、いま、俺が出せる全力の力で。

キン

ズサズサズサズサズサズサズサズサズ

グラ。モスみたいなやつはあっけなくバラバラになった。

「またつまらぬものw（ry・・・」

とりあえず命の危機は去つた。ありがとう正宗！

・・・あれ？正宗が消えない。どうしてだ？

・・・もしかして永久に顕現？

「とりあえず『倉庫』を創ってそこに入れるか」

俺は『倉庫』を創ってそこに正宗を入れた。とりあえず能力のことは後回しだ。そんなことより――

「これ・・・どうしよう？」

そう、俺が正宗でバラバラにしたかつて生き物であった『モノ』が俺の足元に転がっている。殺したときといい、今といい、吐き気とかはない。

「うゝん、モンスターがいるくらいだから、街とかに行ったらギルドとかあるかもな。・・・一応持っていくか」

俺は『倉庫』を創ってそこにモンスターを入れた。どうやって入れたかって？なんか地面に『倉庫』の入り口発生させるように想像したらできた。

ちなみに、倉庫の中では時間が経過しない。だから食べ物が腐ったり、刀が錆びたりする恐れはない。

「とりあえず出口探すか・・・」

俺は、火山の出口を目指して歩き始めた。

火山つてお前・・・（後書き）

チート覚醒！

もう何でもあり！

だからチートとか文に関しての非難はやめてね！

街はいずこに

グラ。モス見たいなやつを倒した後、俺は火山の出口を目指して歩いていた。

「つつても、出口がどこにあるかわからないけどなっ！」

・・・誰も突っ込んでくれないからさびしい。だからこれからは自重しよう。

そういえばさつき思い出したんだが『グラ。モス空間制御して倒せばよかったんじゃない？』と考えた。思い出したときは

orz
↑

こんな感じになったが、いまさら悔いてもしょうがないと開き直った。

それにしても、さつきから1時間近く歩いているが、まったく言っていないほど出口にたどり着かない。

「はあ、こんなときモン。ンみたいに地図があつた――」

『てっててー』

・・・また おまえか！

『よろず補助が追加された！』

・・・よろず補助？

名前からするに、いろんこのことで補助してくれそうな気がするが・・。

【説明しよう】

1、世界地図

その世界のあらゆる都市や街、果ては竜の棲む山までこと細かく記された地図。『オープン』と頭の中で唱えれば頭に情報が入ってくる

2、瞬間記憶能力

読んだもの見たものを瞬時に理解、記憶することが出来る。技なども、身体能力が高ければ高いほど熟練度が上がる。本などは、ペー지를視界に一瞬でもおさめるだけで記憶する。所謂『速読』。一度記憶したものは忘れない

3、言語・文字理解

どんな国の言葉や文字であろうとも理解できる。たとえば方言が入っていても、言葉である限り理解が可能。動物や魔物などの言葉も理解可能

4、応用

上の説明のものえお応用することによって、あらゆる者と交友関係を築くことが可能。空間移動魔法を唱えるとき、世界地図を頭に展開させると、指定した場所に瞬時に飛べる。

【以上で説明を終わるとしよう】

・・・またなんかすごいチートキタ———（。。）
/！！！！！

もはやなんでもアリっすね。ここまできたら逆にすがすがしいね。

でも、正直この能力はありがたい。まず『世界地図』。これがあるおかげでどうにかこの火山から出ることが出来そうだ。それに、迷ったときにも役に立つ。・・・その前に、迷子にならないか。

次に『瞬間記憶能力』。どこの某インさんだ！っていわれそうだけど、正直あれよりすごい。だって、技もコピーできるんだぜ？それにいまの俺の『身体能力』は常識をギリギリアウトしたぐらいだ。熟練度とか、もうやばいことになるのは目に見えている。んで、この『速読』もううれしい。元の世界では小説だけでなく、図鑑や伝記、辞典などいろんな種類の本が好きだった。1日に1冊は読まないと落ち着かないくらいに。所謂『活字中毒』ってやつかな？

で、最後に『言語・文字理解』。俺も来た時『この人と会話できるのかな？』と思っていたのでありがたい。それに、文字もかけるようになるようだ。『動物や魔物とも会話できる』と説明で言っていたので、ことを穏便に済ませることが出来るかもしれない。出来れば使い魔とかも欲しいしね。

んじゃ、まず出口までひとつ走りしますか。

——— 5分後

・・・まさか目覚めたところの真後ろに出口があるとは思わなかつ

た。

「いままでの俺の苦労はなんだったんだ？」

まあ、実際は疲れてもいないし、腹も減ってないけどね。・・・な
んでだ？

疲れないのはわかるよ？チートボディだしね。でも、何で腹が減ら
ないんだ？結構いい時間だと思うが・・・。まあ、細かいことを気
にしても仕方ないか。（↑細かくありません

そんなくだらないことを考えながら火山の外に出てみたら――

「今度は空気がきれいな森ですかっ！」

森だった。

木、木、木。

どこを見渡しても目に映るのは木だった。それも結構高い。

「なぜだ・・・なぜなんだーーーーー！！！」

とりあえず叫んでみた。

エコーがすごい。なぜなんだーーーーー！！なぜなんだー
ー！！・・・んだー！！・・・だー！！

しかし、森に変化はなくとりあえずそこらへんを歩いてみることに。

いきなり『世界地図』を使って街を目指さない空気の読める男、凌矢です！

・・・あ、ちなみに俺の名前は霧谷^{きりたに}凌矢^{りょうや}だ。

特技はなし。趣味は読書、ゲーム。

・・・え？

そんなときいてないけどね？

うっせいわい！

いいでしょ！俺が自己紹介したって！

・・・冗談はこのくらいにして。

「ここに食料とかないかなー」

いくら腹が減っていないからといって、これから腹がすくかもしれない。いや、すくだろう。

ということで、食べれる食料を探していたわけだが――

「どれ食えるかわかんねえ・・・」

そう、どれが食べれてどれが食べれないのか見当が付かなかった。元の世界では、図鑑を読んでいたからある程度の植物は知っていたが、残念ながらここは異世界。見たことがあるようなものから、まったく見たことのないものまでいろいろあった。

「ああ、こんなときに食用なのかどうか見分けること——」

『てっててー』

・・・もう、なんかなれた。

『鑑定師スキルを手に入れた』

・・・なんとなく名前がわかった。

【説明

いろいろなものの詳細を確認出来ます。生き物に向けて発動した場合、対象の強さはランク分けして表されます。

ランクはG～EX+までに分けて記されます。その上に『測定不可能』というものがあり、これは魔神級～神級が全力を出した場合に表示されます。

説明終わり】

・・・結構便利だな。つか、便利過ぎる。

なにこの『生き物に向けて発動した場合、対象の強さはランク分けして表されます。』って。

相手の能力わかるとか・・・反則もいいところだなオイ。

・・・ただひとつだけ『もしかしたらそうなんじゃないかな』と

思うことができた。

それは、この『チート』が俺が『あつたらいいな』と思った瞬間出てくるということだ。

最初的时候は『この暑さ何とかならないかな』と思った瞬間『空間を操る能力』を手に入れた。

次は『正宗を振ってみたかったな』と思った瞬間『よろず創造』が手に入った。

んで『地図が欲しいな』と思った瞬間『よろず補助』が手に入った。

さつきは『これ食えんのかな』と思った瞬間『鑑定師』のスキルを手に入れた。

このことから、俺が『あつたらいいな』と思うと出てくること予想できる。

・・・これは迂闊に想像できんな。

これ以上増えても使い道がないしな。

これ以上はなるべく『』があつたらいいな』とは思わないことにしよう。

よし、考え事はいったんここでやめて、早速食べ物W「キヤーー

! ! !
! ?

なんだ！？いまの叫び声は！

確かあつちの方向から声が聞こえた気がした。

・ ・ ・ とりあえず行ってみるか。

俺は声が聞こえた方向に向かって走っていった。

街はいずこに（後書き）

ひどいひどいひどい

まあ、突っ込まないでください。

盗賊無双（倒す的な意味で）

俺は今走っている。

もちろん力は抑えて『車よりちょっとはやいかな』ぐらいの速さで。

・・・なに？

十分速い？

気にスンナ。ハゲるぞ。

ん？何で走っているかって？

そりやお前・・・悲鳴が聞こえたからだろ？悲鳴とかマジテンプレ。フラグの予感！

・・・まあ、俺じゃフラグとか立たないけどね。

そんなことを考えている今も走り続ける。

・・・あ。これってさ。

やっぱり正体かくして登場したほうがいいのか？なんか正義のヒーローみたいな？

・・・すいません。本音はネタやりたかっただけです。

だって、口。・ストールの真似したかったんだもん。

颯爽と現れて、颯爽と敵を倒し、颯爽と消える。

まさにヒーローやん。

いいなーいいなー。俺もあんなヒーローになりたいなー。

・・・よし！じゃあ、正体隠して登場しましょか。

口。の格好だったら顔とかすぐにばれるし、どうすっかなー。

『破面化』したときの仮面みたいなので顔はごまかせるかな？いや、華蝶仮面も捨てがたい。

・・・普通に仮面で行くか。

んで、格好は・・・暁のやつよくね？

あの黒地に赤雲の模様が描かれた外套ってなんかかつこよくね？

・・・よし決定！この二つだな。

俺は『仮面』と『暁の服』を『よろず創造』で作り出した。

もと着ていた服は『倉庫』を創りそこにいれ、移動しながら着替えた。

傍から見たら一瞬で服が変わったように見えるだろう。

んで、この『仮面』を付けたら――

「はい、一瞬にして不審者の出来上がりー」

・・・だめじゃね？

そんなくだらないことしながら走っていると、少女とその少女をかはっている人二人とその周りに20人くらい柄の悪そうな連中がたたかっていた。距離が離れているので、読唇術を使って会話を再現してみる。

「くっ！」

「セラスさん！」

「お嬢様！早く逃げてください！」

「いや！セバスさんとカリアさんをおいて逃げることなんてできません！」

なにやらもめているな。お？あの女の子かわいい。そんなことを思いながら見ていると、柄の悪い連中の一人に、『セラスさん』『カリアさん』と呼ばれていたうちのどちらかが腹部を刺された。

「ぐあっ！」

「セラスさん！」

「へへへ。これであと一人だな」

「ぐふふ。ああ、そうだな。その嬢ちゃんとネーちゃんかなりの上玉だから、あいつらにはさぞかし高く売れるだろうな」

「ははは。ちげーねー！」

「っ！」

キーン（剣が弾き飛ばされる音）

ヒュンヒュンヒュン（剣が空を飛ぶ音）

ザクッ（剣が地面に刺さる音）

どうやら刺されたのは『セラスさん』のほづらしい。

・・・あいつら？

・・・たぶん異世界にありきたりな『奴隷商人』というやつらだろう。

そんなこと思っていると、たぶん『カリアさん』の剣が飛ばされた。まあ、そりゃ5人連続で裁こうとすんのは無理があるわな。

そろそろか。

「げへへ。これでおw——」

「まてーい！」

「ああ？何だあ？」

よしー！ういで口。風に——

「力と力のぶつかり合う狭間に人、己が醜い欲望を満たさんとする者よ。その行いを恥と知れ！それを外道と言っ！」

なんか違う気がするが確かこんなもんだったような気がする。

「だ、だれでえ！」

「貴様に名乗る名はないっ！」

そう言っで、まず目の前にいた3人を蹴りで沈める。回し蹴りでドドーンと。

「くそっ！お前一人でこの人数に勝てると思ってるのか！？」

「もちろん！」

即答してやった。

そしたら、左右から俺を挟むように剣を振るってきた。俺はそれをしゃがんでやり過す。剣を十分に扱えていない2人は、遠心力に負け、互いのわき腹を半分くらい切断した。

「「ぎゃー！」」

うるさい野郎の悲鳴が上がる。野郎の悲鳴とかマジ耳障りなだけだな。

なんか、めんどくさいんで早速チート技使います。

つつてもこれ、本来ロボットの技なんだが……。おおっと、あの

人たちに結界を張らないと。適当に『アル。ミスの傘』みたいなやつでも張っておくか。

「エンゲージ・・・」

「デイス・レヴよ、その力を解放しろ！」

「テトラクテイス・グラマトン・・・！」

「な、なんだ？」

「さあ、時の流れを垣間見ろ！」

「う、うわぁ！」

「アイン・ソ。オウル！デッド・エ。ド・シュート！」

キュピーン

ドドドドン

ヒョワワワワワ！ヒョワワワワワ！

バドンゴドン！バダンゴドン！バドンゴドン！

チュウイウイウイウイウイーーーーー！

チューン！

ヒュインヒュインヒュインヒュインヒュインヒュインヒュイン
インヒュインヒュイン

ヒョワンヒョワンヒョワン

ヒューーーーン・・・

・・・おほう。やば、やりすぎた。賊どっかに消えた。つか、近くにあった木とかも消えた。

つか、これ。どうやって発動したんだ？

たぶんだが、魔力を使ったのはわかった。発動したとき、体からなんか抜けるような気がした。

でも、疲れとかはない。腹も減ってない。・・・これさつきもやっ
た気がする。

とりあえず、襲われていた人たちのところに行くとしますか。

おおつと『アル。ミスの傘』を解除しないと。

「怪我とかないか？」

「え？・・・え、ええ、はい」

「わ、私も・・・あ！セラスさん！」

「ぐっ・・・うう・・・」

「・・・あ」

いま「・・・あ」って言ったよね。『カリアさん』言ったよね！？
この人完全に忘れてたよね！

まあ、俺も忘れてたけどっ！

「ああ、じゃあ『ベホイミ』！」

ほわぁん

「「「！！！？」」」

「き、傷が・・・」

「な、なおった・・・」

「ばんなそかな・・・」

・・・おい。いまお前完璧にパクツタヨネ？

え？

誰のつてか？

そら、ソントクンのネタだよ！『ばんなそかな』はソントクンのネタだよ！

・・・すいません。

つい興奮してしまいました。

「っ！？そういえば、き、貴様は誰だ？」

「誰だつて・・・」

「！！そ、そうです！貴方は誰ですか？それと、その仮面はなんですか？」

誰ですかって・・・。

・・・あ。そういえば俺、いまメツチャ怪しい格好してんジャン。

あー、どうしよう？

・・・しょうがない。なんか癪だが、仮面ははずすか。

カパッ

「「「!?(うわぁ・・・すごく美形・・・)」」」

「これでいいか?」

ん?・・・なんか3人とも呆けているな。

・・・そうか!俺の顔があまりにもひど過ぎてかわいそうに思っているんだな!(↑自分の顔を見ていません

とりあえず自己紹介するか。

「あゝ、俺は霧谷 凌矢だ」

「え?・・・あ、ああ。わたしはカリア・ブラッドソンだ。キリヤって珍しい名前ね」

「わ、私はアルネイル・バーリアンです・・・。ホント珍しいです」

「ボクはセラス・アンラージだよ。ちなみに性別は女。 うんうん」

「えーっと。カリアさんにアルネイルちゃんにセラスさん。キリヤは苗字でリヨウヤが名前だ。リヨウヤ・キリヤってところ」

「何で私だけ“ちゃん”ずけ?・・・アルって呼んでください。へー、キリヤって言う苗字も珍しいですね」

「あ、僕はセラスでいいよー。なんか“さん”って堅苦しいし。うんうん」

「わたしもカリアでかまわない。確かに」

・・・おふう。僕っ娘ですか。だが、生憎俺はあまりぐつと来ない。

容貌はカリアが、銀髪でメガネをしてて、いかにも『できる女!』って感じた。

アルちゃんが、金髪でどつかのお嬢様みたいな感じ。でも、見下す視線とかそーゆー人特有のものは感じられない。

セラスが、短髪青髪で、いかにも『ボーイッシュ!』って感じ。

まあ、みんな美少女美女だが。

「あ!お嬢様!そろそろ戻らないと」

「え?もうそんな時間ですか?」

「はい。集合時間まで後十分です」

どうやら、他の仲間がいるらしい。

・・・お嬢様?

盗賊無双（倒す的な意味で）（後書き）

— 技説明 —

『アイン・ソフ・オウル』はデイス・アストラガンの必殺技です。
デイス・アストラガンは『スーパーロボット大戦シリーズ』に登場する架空の機動兵器です。

『アルテミスの傘』はガンダムSEEDのあのあれですw

主人公設定（ネタバレ注意）

名前：霧谷 凌矢 きりたに りょうや

立場：主人公

特技：何でもできる

好きなもの：卵料理、本

嫌いなもの：人型以外の動くものすべて、トマト

能力：知ってる技なら何でも使える（身体能力がついてくる限り）、空間を操れる、よろず創造、よろず補助、鑑定師

ランク（G→測定不可能まで）

Lv：1

HP：A A（一般人はD - 〓 D D D +）

MP：A -（一般人はE - 〓 E E E +、司祭がB B B、神官がA、上位神官がA A、最上位神官がA A A）

体力：A A A -（一般人はD - 〓 D D D +）

俊敏：A A A -（一般人はD - 〓 D D D +）

器用さ：S（一般人はD - 〓 C C C +）

精神力：A A A（一般人はD - 〓 D D D +）

運：B（一般人はC - 〓 B B B +）

魅力：S S +

もといった世界では基本なんでもできるけど、特筆した能力がない。つまり某三国志ゲームのハムのひと。でも、普通じゃない。俗に言う非凡。でも、天才とかではない。どちらかというと秀才。家事とかは親が共働きのため自然に覚えた。『学校でも特に目立っていなかった』と主人公は思っているが、それなりに顔はいいほうで性格

も温厚、頭や運動神経もそれなりによかったので、隠れファンがいたりもしていた。だが、主人公は気づいていなかった。所謂ド鈍感。かなりアニメや漫画が好き。興味のあるものは基本覚えている。

能力説明

【知ってる技なら何でも使える】

もといた世界の漫画やアニメ、小説などででてきた技など仕組みを知っていれば使える。魔法とかは何属性でどんなのか知っていれば使える。もちろんスーパーロボット大戦などに出てきた技も使える。この能力で使う技は何であれ一定の魔力しか使わない。つまり【ファイア】を使って減った魔力と【ファイガ】を使って減った魔力は同じということ。ちなみに消費魔力は5。

【空間を操れる】

1、攻撃方法

敵の周りに超重力を発生させ、敵を圧死させる。ただし、それには使用者の魔力が相を 上回っている必要がある。

2、倉庫

自分独自の空間を発生させ、そこに新たな世界を発足させる。倉庫や、修行の場所として使うことが可能。空間は何個でも発生させることができる。

3、空間制御

自分の周りの空間を制御し、他の人に見えないようにしたり、攻撃を無効化できる。ただし、無効化できる攻撃の威力は、使用者の

魔力と精神力によって大きく変わる。

4、上の応用

上の項目を応用することで、特定の物体の時間を早くしたり遅くしたり出来る。そのほかにも、超重力を自分の任意の方向に放つことが出来る。

【よろず創造】

いろんなものを創造できる。創造なんでもオリジナルなチートのものも創造できる。F・o・t・eにでてくる【投影】の万能型と思ってくれてかまわない。武器に防具、アイテムや鉱石なんでも創造できる。ただし、食料とか命（魂）は創造できない。使用者の能力しだいでの完成度が違ってくる。消費魔力は5。

【よろず補助】

1、世界地図

その世界のあらゆる都市や街、果ては竜の棲む山までこと細かく記された地図。『オープン』と頭の中で唱えれば頭に情報が入ってくる。

2、瞬間記憶能力

読んだもの見たものを瞬時に理解、記憶することが出来る。技なども、身体能力が高ければ高いほど熟練度が上がる。本などは、ペー지를視界に一瞬でもおさめるだけで記憶する。所謂『速読』。一度記憶したものは忘れない

3、言語・文字理解

どんな国の言葉や文字であろうとも理解できる。たとえば方言が入っている、言葉である限り理解が可能。動物や魔物などの言葉も理解可能

4、応用

上の説明のものえお応用することによって、あらゆる者と交友関係を築くことが可能。空間移動魔法を唱えるとき、世界地図を頭に展開させると、指定した場所に瞬時に飛べる。

【鑑定師】

いろいろなものの詳細を確認出来ます。生き物に向けて発動した場合、対象の強さはランク分けして表されます。

ランクはG、EX+までに分けて記されます。その上に『測定不可能』というものがあり、これは魔神級、神級が全力を出した場合に表示されます。

魔力表

F -	0
F	1 0
F +	2 0
F F -	3 0
F F	4 0
F F +	5 0
F F F -	6 0
F F F	7 0
F F F +	8 0
E -	9 0

B B -	B +	B	B -	C C C +	C C C -	C C C +	C C C	C C C -	C C C +	C	C -	D D D +	D D D	D D D -	D D D +	D D D -	D D D +	D	D -	E E E +	E E E	E E E -	E E E +	E E E	E E E -	E E E +	E E E		
3 9 0	3 8 0	3 7 0	3 6 0	3 5 0	3 4 0	3 3 0	3 2 0	3 1 0	3 0 0	2 9 0	2 8 0	2 7 0	2 6 0	2 5 0	2 4 0	2 3 0	2 2 0	2 1 0	2 0 0	1 9 0	1 8 0	1 7 0	1 6 0	1 5 0	1 4 0	1 3 0	1 2 0	1 1 0	1 0 0

測定不能	E X +	E X	E X -	S S S +	S S S	S S S -	S S S +	S S	S S S -	S +	S	S	S -	A A A +	A A A	A A A -	A A A +	A A A -	A +	A	A -	B B B +	B B B	B B B -	B B B +	B B
1	1	1	9	8	7	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
1	1	0	0	0	0	0	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0																								
{																										

主人公設定（ネタバレ注意）（後書き）

無駄に使った・・・

でも無駄とか言わないでね

お知らせ

テストが終わったら更新します。

ちょっと

いや、かなり英語がヤバイ。

ほんとまじで

どうしよう・・・

覚えれない

単語とか意味とか・・・

もうどうしたらいいか分からない。

数学でも無理・・・。

漢文は何とかいける・・・。

でも、古文は・・・。

ああああああ

どうしようか・・・。

物理とかもってのほかだ。

元科学部だけど

そんなのかんけーねー。

・・・もしかしてここで俺の人生ゲームオーバーですか？

いや、あきらめたらそこで試合終了だ！

あきらめない！

あきらめないぞ！

やあぁってやるぜっ！

お知らせ（後書き）

ゾンビ新巻買いました。

臆病度チェックとかマジウケルww

終わりにします！

えー

このたびこの小説は無期限停止。

というより、やめることになりました。

まあ、やめるといっても、

設定はそのまま、書き直すだけです。

何かもうひとつのほうと若干かぶってしまつて。

そこで新たにまた違うやつをと思い

はじめにお嬢様方に出会わない設定で行こうかと思っています。

読んでくださった皆さん。

大変申し訳ありません！

なにとぞ、ご容赦ください。

あ、まだ200字行つてない。

くっそー、じゃあ、もう一度

本当にありがとうございました！

次回作も読んでいただけたらうれしいです！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9507t/>

Let's thinking !! ~考えちゃダメだろ...~

2011年10月16日15時05分発行